

二者間会話における笑顔の同調が対人魅力および自己開示に及ぼす影響

Effects of Congruent Smile in Dyadic Conversation on Interpersonal Attraction and Self-disclosure

青木 滉一郎 (Koichiro Aoki) 指導：宮崎 正己

1. 緒言

対人関係の親密化をもたらす要因の一つに、コミュニケーションの当事者間で交わされる非言語行動がある。その中でも好意や親密さの伝達機能を担う「笑顔」は、表出者の印象や魅力評価を高めることが知られている。二者間会話においては、両者の笑顔が同調的に表出されることで一体感が生じ、さらなる魅力の向上が期待できる。そこで、本研究では、会話中の笑顔とその同調傾向が相手からの魅力評価に及ぼす影響を明らかにする。また、笑顔の表出と言語・非言語行動との組み合わせによる効果にも注目し、対人魅力を規定する要因の解明を行う。

2. 方法

大学生・大学院生の男女32名を対象に、面識のない同性の二者による会話実験を実施した。二名の被験者はお互いについてよく知り合えるよう、自由な話題で12分間の会話を行った。また、会話の終了後に、話し相手の魅力を中村(1988)の対人魅力尺度[1]を用いて評価した。実験室内には三台のビデオカメラを設置し、会話中の被験者の表情および非言語行動を映像に収めた。

表情を撮影した映像について、表情解析ソフトウェア「FaceReader 6 (Noldus社)」を用いた解析を行い、被験者の「笑顔表出量」および「笑顔の同調傾向」を求めた。また、会話中の非言語行動として「視線」、「うなずき」、「発話」の三種類に注目した。実験者が映像を観察することで、各行動の生起時間・頻度の測定を行った。さらに、言語行動としての「自己開示」に注目した。まず、被験者の会話中の発言を文字化し、各発話についてStiles (1992)の発話カテゴリー [2]に基づく分類を行った。そのうち、内面的情報を表明する「開示」のカテゴリーに分類された発話の数を「自己開示量」と定義した。

3. 結果

32名の被験者を、笑顔表出量と笑顔の同調傾向の値に応じて「高群(値の上位16名)」と「低群(値の下位16名)」に分類した。そして、「非言語行動の生起時間・頻度」、「自己開示量」、「対人魅力得点(情緒的魅力得点、相互作用志向性得点の二種類)」を従属変数、「笑顔表出量/笑顔の同調傾向の高群・低群」を独立変数とする、二要因の分散分析を行った。分析の結果、情緒的魅力得点に関して笑顔表

出量の主効果が見られた($F(28, 1) = 6.03, p < .05$)。また、笑顔表出量と同調傾向の交互作用が有意であった($F(28, 1) = 6.27, p < .05$)。単純主効果の検定を行ったところ、同調傾向の低群で笑顔表出量の単純主効果が見られた($F(28, 1) = 12.30, p < .01$, 高群 > 低群)。また、笑顔表出量の低群において、同調傾向の単純主効果が見られた($F(28, 1) = 5.25, p < .05$, 高群 > 低群)。

また、「対人魅力得点」を従属変数、「笑顔表出量」と「笑顔の同調傾向」、「非言語行動の生起時間・頻度」、「自己開示量」、「笑顔表出量と他の変数との交互作用項」を独立変数とする重回帰分析を行った。情緒的魅力得点については、笑顔表出量の標準偏回帰係数が有意であった($\beta = .38, p < .05$)。笑顔表出量と発話の生起時間の交互作用項では、標準偏回帰係数が有意な傾向を示した($\beta = -.30, p < .10$)。修正 R^2 は.24 ($F(4, 27) = 3.41, p < .05$)となった。相互作用志向性得点については、発話の生起頻度の標準偏回帰係数が有意であった($\beta = -.40, p < .05$)。また、自己開示量の標準偏回帰係数が有意な傾向を示した($\beta = .28, p < .10$)。修正 R^2 は.15 ($F(3, 28) = 2.83, p < .10$)となった。

4. 考察

会話中の笑顔は、情緒的魅力の向上に寄与することが明らかになった。特に、笑顔を示した上で自らの発話時間を適度に抑えるような、聞き手としての役割を果たす被験者は、高い魅力評価を得ると考えられる。表情の同調は、笑顔による魅力向上を促進するというよりも、笑顔表出が少ない場合の魅力評価を高めることが示唆された。一方、相互作用志向性には、自己開示量と発話の頻度が正負の影響を及ぼした。他者との相互作用について評価を行う際には、発話内容を含めた複雑な意思決定がなされていると推察される。今後は、個人の性格特性なども考慮した上で、対人行動が魅力評価にもたらす効果を検討することが望ましい。

参考文献

- [1] 中村雅彦: 非類似の他者に対する魅力—評価者の寛容的対人態度に関する検討—, 実験社会心理学研究, 27, 121-130, 1988
- [2] Stiles, W. B.: Describing talk: A taxonomy of verbal response modes, Newbury Park, CA: Sage Publications, 1992